

## 式辞

厳しい寒さと大雪をもたらした冬将軍が去り、いよいよ草木が芽吹く弥生の時を迎えました。

コロナ禍のため、以前同様とはまいりませんが、本日ここに、金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校第72回卒業式を挙行できますこと、皆様と共に喜びたいと思います。

第72回生118名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。本校関係者一同は、これまでに皆さんが尽くされた努力と研鑽を心から讃えます。

また、今日まで、長きにわたりお子様の修学を支え励ましてこられた保護者の皆様に対しましても、深く敬意を表します。

皆さんが3年間を過ごした本校の学校目標は「地球サイズの教育」です。具体的には、地球生態系の共生者として、積極的に自己の責任を果たすグローバル人材を育てることです。第72回生の皆さんは、SGH（スーパー・グローバル・ハイスクール）事業の指定最終年度に入学され、2年次からは文部科学省WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業の一期生として学びを進めてきました。主体的・対話的に学び、その学びをより深いものにしていく力を、日常の学校生活はもちろん、シンガポールでの海外現地研修等の校外活動でも磨いてきました。本校で身に付けた探究的に学ぶ力は、大学はもちろん、変化の激しい社会に出てからは、ますます必要とされるものです。

グローバル人材を育てることをめざす本校の伝統的な校風は「自主自律」です。この校風は、「昭和の松下村塾」を標榜し設立された、本校創設時からの伝統です。この校風の下、皆さんの先輩は、さまざまなことに自主的に取り組み、社会に貢献できる行動力を身に付けるとともに、自らの行動に責任を持ち、自分が為すべきことを誠実に果たしていこうとする精神力を身に付けてこの学び舎を巣立たれました。本日卒業される皆さんにも間違いなくこの校風が身に付いています。皆さんがリードし、大きな盛り上がりを見せたであろうさまざまな学校行事や高校総体等が中止や大幅な制約の中での実施を余儀なくされた無念さは、察して余りあります。

私自身も皆さんと共に活動できる機会が大幅に制限されたことは残念でなりませんでした。そのような中であっても、朝の登校時に爽やかな笑顔と共に挨拶を返してくれた多くの皆さん。直面している課題について相談するため、入りづらいであろう校長室に足を運んでくれた皆さん。そして、東日本大震災から10年の節目に、3年生全クラスで「命と向き合う」授業を行う機会を与えてくださった皆さんに心から感謝しています。

本校は、1学年3クラスの小規模校です。それゆえ、その関係性は濃密なものであったと思います。先輩方の多くは、「附属高校での出会いが、今の自分を支えている」と口にされます。本校で結ばれた絆は、一生の宝です。同級生に限らず、9千名を超える先輩方、そしてこれから続いてくる後輩とのつながりは大きな財産になります。

「学びて去らばふり顧れ」校歌の一説です。どうぞ、本校での学びを土台に、日本を牽引

し、世界に羽ばたいてください。折に触れ、本校で過ごした時を振り返ってください。そして、必要とあらば、いつでも母校に羽を休めに来てください。大歓迎します。

卒業生の皆さんの前途に幸多からんことを祈念して式辞といたします。

令和3年3月5日

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校

校長 中澤宏一